

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 何事にも誠実に取り組み、強い意志を持って主体的に学習する態度を身に付けさせる。 2 郷土に誇りを持ち、他者を敬愛する豊かな人間性を養う。 3 心身ともに健康で、社会の発展に貢献できるたくましさを育てる。
------------	---

(2) 現状と課題	ギガスクール構想の1人1台端末を授業や総合的な探究の時間に有効に活用できるように、積極的に研修を行い、各教科等で試行錯誤して授業改善することが課題である。また、「あいさつの励行」を挙げて取り組みを続けており、コミュニケーション能力向上において一定の成果は認められるが、教職員も含めてさらに挨拶の励行を推進していきたい。生徒の進路指導については添削や解説会など、生徒に個別に対応することを基本として進めており、これまで積み上げてきた実績を踏まえ、さらに改良を加えてチームによる指導体制を確立することが課題である。
-----------	---

(3) 重点目標	1 探究型(協調型)学習の効果的活用
	2 あいさつの活性化
	3 黒高型進路指導の確立
	4 ICTの効果的活用

(4) 結果の公表	本校ホームページ上にて公表する。
-----------	------------------

学校整理番号	17
学 校 名	黒石高等学校
全日制の課程	校舎

自己評価実施日	令和7年1月27日
学校関係者評価実施日	令和7年3月10日

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校運営協議会委員 9 名

自 己 評 価					学校関係者評価	(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	探究型（協調型）学習の効果的活用	①講義形式の一斉授業と探究学習をバランスよく実施し、生徒に「わかる・できる・喜び」を与える授業サイクルをつくる。 ② 総合的な探究の時間において学年別に育成すべき資質能力を、1学年では「傾聴力」、2学年では「対話力」、3学年では「発信力」と明確化し育成していく。	①授業や総合的な探究の時間でのディベートや発表等により、生徒が主体的に活動し、考える機会が増えた。 ②市内の中学校で、探究活動・課題研究の成果発表会を実施し、小中高の連携を図り、地域への発信力を高めた。 ❶生徒が「わかる」「興味を持つ」ためにも、I C T を効果的に活用する方法をより研修しなければならない。 ❷総合的な探究の時間での内容は、担当者によって差があり、打合せが必要である。	B	・昨年度に引き続き、2回目となる「総合的な探究の時間」等成果発表会を先月中郷中学校で実施していただき、本校卒業生がいろいろな場面で活躍している様子が分かり、あの先輩が…といった生徒が成長している姿を後輩が見ることもできるとも良い機会となっている。小・中・高の連携となり、新しい取り組みになった。	・ICT等活用委員会と連携し、生徒にICT機器を使用させる側である教職員に対し、公開授業や研修といった機会 で恒常的にICT機器活用場面を設定する。 ・総探推進委員会のメンバーにより、会議のほか他学年が実施する行事に参加し、相互の取り組みを理解し合う場面を作ることで次年度に向けたより精度の高い授業実践に繋げてもらう。
2	あいさつの活性化	① 職員からあいさつをし、あいさつの励行について生徒に範を示す。 ②授業、HR、部活動、委員会など生徒との関わりの中で挨拶を指導する。	①朝の玄関指導を生徒と関われる機会と捉え明るく声掛けをしながら生徒の様子を窺い、生徒理解の入り口として役立てている。 ②学校生活の中で挨拶や礼節について指導する場面は多岐にわたり、先生方はタイミングを逃さないよう生徒と接している。生徒も徐々にではあるが場面毎の適切な振る舞いを学んで成長している。 ❶保護者アンケートの結果から生徒の挨拶に対する先生方の反応に2割ほど不満があり改善していきたい。	B	・アンケート結果からも、生徒の挨拶はとても良いと思う。今後も挨拶を徹底させて、気持ちの良い一日を過ごせるように取り組ませてほしい。 ・人間関係の構築は、あいさつからということが言われている。社会人として必要なあいさつのできる人材の育成に、これからも取り組んでもらいたい。	挨拶をすることによる効果について進路指導と関連付けて考えることが教員も生徒も多いと思われるが、校訓にある「健康」にちみなみずは自分の健康のために行われていることを生徒に理解させたい。大きな声での挨拶が自分で気持ちよくなることや笑顔になることで周囲との良好なコミュニケーションの育成につなげていきたいと思う。
3	黒高型進学指導の確立	① 国公立大学志望者には、基礎力の定着と応用力の育成のため、計画的かつ継続的に個別添削や解説会を実施する。 ② 生徒の進路達成のため、一人一人に複数の教職員で対応し、きめ細かい指導を行う。	①多様な進路に対応するため、指導内容や方針については早めに提示し、「分掌主導・学年実働」の流れを進路指導部で作っている。年度当初に個別添削指導に関する計画を進路指導部から学年に提示し、運用は各学年で行うようにしている。学習だけではなく、大学で学ぶ意義や地域社会への関わりについても丁寧に指導している。 ②総合型選抜、学校推薦型選抜、就職試験の受験生には、全教職員を担当として個々に割り当て、面接指導、小論文指導などを実施している。 ❶運用を各学年で行っているため、課題の分量などに多少差がでている。 ❷担当の教職員によって、指導内容に差が出ている。	B	・進路指導に対しての学校の対策であるとか、情報デザイン科があり、看護科があり、他校には見られない教育活動が行われており、進路状況を含めて中学生や保護者にももっとアピールして欲しい。 ・今年度の進路状況を外部に知ってもらえるようにして、黒高型進学指導の成果が伝えられるようにして欲しい。	・国公立大学への進学希望者を対象にした個人添削指導を始めて5年目となる。生徒の現状を踏まえると、学習指導に入る前段階の指導が必要であると痛感する。なぜ大学進学なのか、なぜその学部なのか、どのようなスキルを身に付けたいのかについて探究させる働きかけやシステムづくりを、今後後も継続していかねばならない。 ・近年増加傾向にある小論文試験に対応するため、全教員の指導力を向上させなければならない。国語科教員のみに頼らない指導体制を確立する。

4	I C Tの効果的活用	①ICT機器を積極的に活用し、授業実践に努める。 ②生徒に対して一人一台の端末を、有効活用するように努めている。	①ロイロノートを導入し、3回校内研修会を実施し、教員のスキルを高め、学んだことを授業で実践できた。 ②様々な取組を行い、ICTの効果的な活用について研究できた。 ❶従来型の指導を続け、ICTの導入ができていない授業もある。 ❷生徒が使う端末に問題が生じ、授業前に担当者の負担が何度かあった。	B	・中学校ではクロームブックを使っているが、一昨年までは「使う」ことが目的となっていて、取ってつけたような授業もあった。現在は必要に応じて使うようになり、教材によってクロームブックの特徴を生かして活用している。高校の授業でも活用方法が工夫されている様子が何われ、参考にしたいと考えている。	・ICT等活用委員会に所属する教員を中心に公開授業や研修会を効果的に実施し、全職員に浸透させるよう努める。 ・生徒の端末に不備がないよう、常日頃から点検やアップデートをする習慣を意識づけさせる。
(11) 総括		学校経営方針を踏まえ、年度末に行った学校運営評価会議で話し合った改善点を、新年度の分掌経営計画に確実に反映し、PDCAを意識した取組を実践して学校の教育目標を達成したい。また授業改善を始め、働き方改革を実施するために重要なとなるICTの効果的な活用について、学校全体で取り組みたい。				